

道有林におけるコスジオビハマキの発生状況 (1 9 7 8 年)

鈴木重孝 上条一昭

1978年のハマキガ類の発生状況は、6月中旬に旭川79林班(1935年植栽)、同78林班(1953年植栽)、滝川36林班(1929年植栽)、道立林業試験場トドマツ集植所(1962年植栽)の4カ所で調べた。その結果を表-1にまとめた。

今年はハマキガ全体の数が昨年とくらべると大きく減少しているのが特徴である。とくにトドマツムシガの1枝当りの個体数は、旭川79林班で2.52匹(昨年は8.95匹)、滝川36林班で8.80匹(昨年は22.33匹)と大きく減少した。コスジオビハマキの個体数も滝川36林班で3.40匹(昨年は2.80匹)とやや増加傾向を示しているほかはいずれの調査地でも減っている。

表 - 1 1977年と1978年のハマキガ類の数(6月調査)

調査地	種名	コス	ト	タ	モ	ト	ト	ト	そ	ハ
		ス	ウ	テ	ミ	ド	ド	ド	の	マ
		ジ	ヒ	ス	ア	マ	マ	マ	他	マ
		オ	オ	ジ	ト	ツ	ツ	ツ	の	マ
		ビ	オ	ハ	キ	メ	メ	チ	ハ	キ
		ハ	ハ	マ	ハ	シ	シ	ビ	マ	ガ
		マ	マ	キ	マ	ガ	ガ	ハ	キ	類
		キ	キ	類	類	ハ	ハ	マ	ガ	合
						マ	マ	キ	類	計
						キ				
旭川経営区	1977年	0.97	0.25	0.42	0.38	0.55	8.95	0.10	0.02	11.64
79林班	1978年	0.05	0.10	0.08	0.42	0.62	2.52	0.15	0	3.94
旭川経営区	1977年	0.63	0.42	0.53	0.75	0.02	1.65	0.17	0	4.17
78林班	1978年	0.06	0.13	0.54	0.29	0.01	0.02	0.05	0	1.10
滝川経営区	1977年	2.80	0.20	0.23	0.80	0.40	22.33	0.10	0.23	27.09
36林班	1978年	3.40	0.18	0.28	3.65	0.95	8.80	0.40	0	17.66
美唄市	1977年	2.50	0.62	1.57	0.73	0.90	0	0	0.02	6.34
トドマツ集植所	1978年	0.86	0.53	2.52	0.52	0.28	0	0.01	0	4.72

注：数値は50cmの枝1本当りの個体数

また今年の気象条件をみると、5下旬から6月初めに一時低温の日があったが、6～7月に高温の日が続き、両月とも過去最高の月平均気温を記録した。このため、この時期が幼虫期に当る昆虫では発育速度が早くなり、カラマツヤツバキイのように今まで年1回の発生であった地域で発生を2回くり返した害虫もあった。コスジオビハマキの幼虫の発育速度は昨年とほぼ同じであった。しかし、成虫の羽化・産卵期に当る7月にもほとんど雨が降らなかったため、コスジオビハマキの産卵数が多かったのではないかと予想される。

昨年は、各調査地ともハマキガ全体の数がふえ、5～6月に高温・乾燥の日が続いたことから、1978年にはコスジオ

ビハマキの数がさらに増加するのではないかと予想していたが、すでに述べたように結果は逆であった。このようなハマキガの数の増減と気象条件の関連について、今までの資料をもとにもっと正確に分析したいと考えている。

図 - 1 は、コスジオビハマキの1枝当りの個体数の年次変動を示したものである。1976年以降は4箇所の調査地で個体数が一様に少なくなっていることがわかる。滝川36林班のように、やや増加傾向を示しているところもあるが、いずれも個体数の変動の幅が小さく、急激に数がふえることはないだろうと思う。

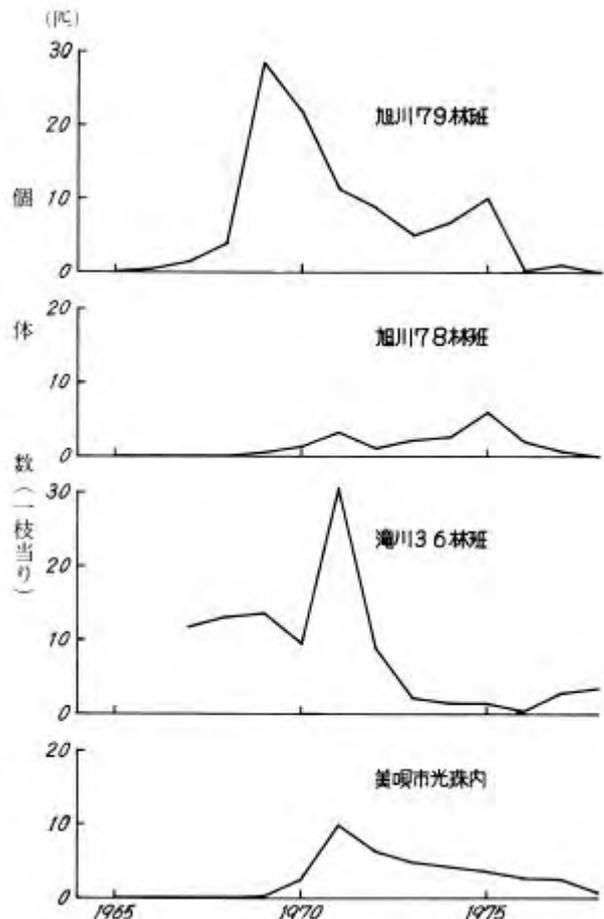


図 - 1 コスジオビハマキの個体数の年次変動